

千代人権福祉センターだより

〒731-0303

安芸高田市八千代町佐々井 1329

2016年9月発行

電話・お太助フォン 52-7500

古来から「八」という漢字は「末広がり」のおめでたい漢字と言われてきました。

そういった漢字を持つ八千代人権福祉センターは

「人のつながり」と「人権を大切にする思い」を“末広がり”で広げていきます。

「排泄ケアが暮らしを変える」 ～一人ひとりの豊かな生活のために～

「むつき庵」代表 浜田きよ子さん

「実際にオムツを装着して、歩きにくさなど感じられ、いい体験になります。どのようにしたら、自分らしく生きていけるか、安易にオムツにすればいいという事ではなく、本人の希望、本人らしく生きていけるようケアしていくことが大事だと思った。」（アンケートより抜粋）

右は、7月5日に開催した在宅介護応援セミナーに参加された方の意見です。このセミナー講師の浜田きよ子さんは、高齢生活研究所・排泄用具の情報館『むつき庵』の代表を務めている方です。

浜田さんは、こう話しさ始めました。
「人は老いて介護を受けるようになつても、最後まで自分らしく生きたいと願います。ですが、その人らしい生活の質を確保しようとなれば、日々の快適な排泄を抜きにはありえないんですよ。

私はこの見えないバリアを突き破ろうと、おむつなど排泄用具にこだわり続けてきました。おむつといえどとにかく漏れないようにという機能重視意識が強く、使われる側の心地よさとかに関心が向いてなかつたんです」。

そして浜田さんは続けます。
「そこでおむつを接点にして、作る側、使う側、使われる側の相談に乗りながら

アドバイスする場所、集まつた情報が生활の質を確保できる製品、作りやよりよい使い方に反映できる排泄用具の情報館が必要だと考えました。その結果が2003年にオープンした『むつき庵』です。介護士さんや看護師さんに排泄用具に関する知識が不足している。これではおむつを当たられる側はたまつたものではありません。自分がおむつにこだわり続けて蓄積した知識を伝えるネットワーク作りが必要だと痛感しました。それで2004年におむつフィッター研修を始めました。

おむつや排泄用具のきちんとした使い方を教える場所がこれまでなかつたんですね」。

講演の最後に浜田さんは――

「介護現場でもおむつのことで困っているんだなということを、あらためて実感しています。それに研修を終えた人の中から自分が住む地域でも、新たな『むつき庵』を作りたいという希望が多く出されました。今では全国に、13ヶ所の『ミニむつき庵』が誕生しています。私がやつてていることが必要とされていると、気持ちを強くしました」と結びました。

最後に、市内の人権会館・人権センターに勤務している相談員と指導員が、前述のおむつフィッター研修に参加する予定です。既に3級の資格を取得された指導員もいます。

将来的に安芸高田市に『ミニむつき庵』が誕生するのも遠い話ではないかも知れません。

アルツハイマーという病気は、家族とゆつくりしたお別れ、つまり、スローグッバイ。

4度のがん手術から生還した夫が
アルツハイマーの妻に贈る、三十一文字のラブレター。

萩金谷天満宮宮司 陽信孝さん

8月28日に、八千代文化施設フ
オルテにて、人権講演会「八重子の
ハミング」老老介護四〇〇〇日の
軌跡「」を開催しました。

講師には、萩金谷天満宮宮司で
もあられる陽信孝さんをお招き
しました。

信孝さんの妻八重子さんはアル
ツハイマーを患い、65歳でその生
涯を閉じられました。

夫の信孝さんは自らも4度の癌
手術を克服され、アルツハイマー
になった妻の介護を、家族とともに
に萩市の自宅で12年間続けてこら
れたのです。

アルツハイマーの原因はわから
ないケースがほとんどですが、八
重子さんの場合、夫の信孝さんが
医者から癌を宣告された時のショ
ックで脳が急激に委縮したためで
はないかと考えられています。

信孝さんが12年間の妻の介護記
録を綴った『八重子のハミング』が
全国出版され、今も全国各地の読
者から手紙が届き、大きな反響を
呼んで、映画として上映されてい
ます。

信孝さんはこの本の中で八重子
さんとの暮らしで感じた思いをそ
の都度、三十一文字の短歌にした
ためおられました。

4度のがん手術から生還した夫が
アルツハイマーの妻に贈る、三十一文字のラブレター。

萩金谷天満宮宮司 陽信孝さん

同じこと 繰り返し問う
妻の日々 繰り返し問う
われの日々 繰り返し問う

時間が経つにつれ病気は進行し、
記憶は徐々に消滅していきました。
たが、かろうじて夫である信孝さ
んのことはわかつていました。ま
た元音楽教師だった八重子さん
は歌が大好きで歌詞は出てこな
いものの、信孝さんのハーモニカ
に合わせメロディを口ずさんで
いました。八重子さんが笑顔を見
せる数少ない瞬間でした。信孝さ
んはよく講演に招かれ八重子さ
んも連れて行かれました。アルツ
ハイマーは決して回復すること
のない病で、患者にとにかく不安
感を与えない介護が必要だと強
く訴えておられました。

講演後のアンケートでは—
「介護に関わって来られた方の
実際に介護された事を聞かせて
頂いて、自分の介護にも活かして
いこうと思います。ありがとうございます。
ざいました。本日は参加させて頂
いて本当に良かったです。心が少
し軽くなりました」などの感想を
いただきました。

千代人権福祉センターは
12月3日(土)に
心耕祭を開催します!

【内容】

○人権講演会
○青少年の意見発表

みなさん
ご来場をお待
ちしています。

どす来い!
どす来い!

やめんさい 止めたあなたは すてきだよ(第21回心耕祭 最優秀標語)